

大綱作り 子供たちの手で



小雨が降るなか、田植えを行ふ児童
生徒たち(21日、大仙市北野目で)

大仙・刈和野で新事業

大仙市刈和野地区で21日、「刈和野大綱米プロジェクト」がスタートした。地域の子供たちに農業体験を通して伝行事「刈和野の大綱引き」の大綱づくりに積極的にかかわってもらう体験プログラム。大仙市が初めて企画し、大綱引きの後継者育成などの課題に地域を挙げて取り組む。

刈和野の大綱引きは50年以上形を変えることなく続いているとされる民俗行事。直径約80cm、長さ約200m、重さ約20kgの大綱を地域住民が毎年製作し、2月10日の夜に上町と下町に分かれて引き合う。

国的重要無形民俗文化財に指定されている。

現在、大綱引きを次世代に伝える後継者育成や、大綱の原料となる稻わらの安定的な確保が、大きな課題となっている。将来的な課題の解決につなげようと、プロジェクトでは市が児童生徒を対象に体験プログラムを作成した。地域

農業体験 稲わら活用

この日は午前に西仙北小学校5年の児童50人と西仙北中学校3年生43人、午後は西仙北高校の全校生徒75人が、約80haの水田にあきたこまちの苗を植えた。秋には稻刈り、稻架掛け作業を行い、稻わらは大綱の製作に使用する。収穫した米は小中高校の授業で活用する。

西仙北中の小笠原理子さん(15)は「自由に苗を植えてよいと言われたので、みんなで楽しく田植えをすることができた。大綱の稻わらとなるように大きく育つてほしい」と語った。

刈和野大綱引保存会の今野幸宏会長(66)は「プロジェクトは来年以降も可能な限り続けたい。子供たちに地域への愛着をより一層持つてもらえたなら」と期待した。